

AYSA西部部会プレゼン

池上 彰 監修

どうして戦争はなくならないの？

地政学で見る世界



2023.9.28

AYSA西部支部 MRN

はじめに

9月度の私のプレゼンは；

池上 彰 監修の

「どうして戦争はなくなるの?・・・地政学で見る世界」
の概要紹介と読后感想の披瀝です。

私は時々、市の図書館に行っては新刊コーナーを覗いて見ることにしています。最近たまたま標記の本が目にとまりました。

今日的テーマでもあり、また腑に落ちる記述が随所にありますので皆さんに紹介させていただくことにしました。楽しく意見交換いたしましょう。

併せて、さらに他の人の考え方も知ろうと、佐藤優/手嶋龍一 対談の「ウクライナ 戦争の嘘」も読んでみましたので紹介することにします。

引用文献：① 池上彰監修 「どうして戦争はなくなるの」

小峰書店 全3巻

② 「ウクライナ戦争の嘘」 佐藤優/手嶋龍一

中公新書ラクレ

プレゼン順序

- ▶ ① 地政学とは？
- ▶ ② Sea Powerの大国 America
- ▶ ③ Land Power の大国 Russia
- ▶ ④ 戦争が起こるのはなぜ？
- ▶ ⑤ 地政学で見る日本
- ▶ ⑥ 地政学で見る中国
- ▶ ⑦ 地政学で見る朝鮮半島
- ▶ ⑧ 戦争と平和の歴史
- ▶ ⑨ どうすれば戦争はなくなるの？
- ▶ ⑩ 安手の正義論を超えた深謀遠慮
(「ウクライナ戦争の嘘」からの引用)
- ▶ ⑪ 読後感想

① 地政学とは？

▶ 地政学(geopolitics)って何？

- 国と国との関係/国際政治 を地理的な条件のもとに考える学問
- 国と国との関係・・・様々
隣国同士、Enemy's enemy、Balance of power など
- Sea Power と Land Power
代表例は？
- チョークポイント (Choke Point) とは
(海洋国家・Sea lane にとって重要な戦略的要衝)
地球規模のChoke Pointsは・・・
日本にとっては・・・

注1 世界の Choke Points



② Sea Powerの大国 America

- ▶ America は巨大な島国
- ▶ 18世紀に独立して領土を広げた
- ▶ 太平洋からAsiaに進出した
- ▶ 第2次世界大戦後ソ連と並ぶ超大国となった
- ▶ 世界の警察官として
第二次世界大戦、朝鮮、キューバ、ベトナム、ソマリア、アフガン、イラク
- ▶ 現代のAmerica のスタンス
世界の Balance of Power を考える戦略をとる

③ Land Power の大国 Russia

- ▶ ユーラシア大陸の Heartland (↔ limb land)
- ▶ 昔から南下政策をとってきた
- ▶ 1904-日露戦争、1914-第1次世界大戦、1917-Russia革命
- ▶ 第2次世界大戦後、冷戦、社会帝国主義領土の拡大
- ▶ 1992年 社会主義ソ連の解体→資本主義国となった
- ▶ 同時にUkraineはソ連との兄弟関係を解消し独立
- ▶ 2022.2.24 Russiaは自国の安全を守るとしてUkraineに侵攻

- ▶ **今後Ukraine侵攻はどうなる？**
 - ① 停戦宣言 (鈴木宗男)
 - ② Ukraineの勝利 (納得のいくFinal Goalは・・・)
 - ③ Russiaの勝利 (どこまで行ったら良しとするのか・・・)
 - ④ 長期化 (NATOの介入、Russiaの核使用 → 第3次世界大戦)

注2 Russia とUkraine の歴史的関係

歴史的に同じ国になったり別の国になったり・・・

- ▶ 9世紀、現在の Ukraine にキエフ公国できる
- ▶ 1240 モンゴル軍がキエフ公国に攻め入り滅亡する
- ▶ 14－16世紀 Ukraine がポーランドやリトアニアの領土に
- ▶ 17～19世紀Ukraine が Russia の領土となる
- ▶ 1917- Russia革命、1927年ソ連誕生 Ukraine はソ連の一員になる
- ▶ 1991-ソ連解体、Ukraine 独立す
- ▶ 2014- Ukraine に親欧米政権誕生
- ▶ 2014- Russia クリミア半島占領 (セバストポリ軍港)
- ▶ 2022- Russia がUkraine に侵攻

注 3 Ukraine侵攻の背景

- ▶ Ukraine のRussia 離れ（NATOへの傾斜）
- ▶ 敵対する国と接することの不安を払拭したい
- ▶ Ukraine はもともとRussia の一部だったのだから取り戻すのは当然という考え
（クリミア半島に軍港あり、Ukraine南東部にはRussia人が在住・Russiaの軍需工場が存在した）

注4 Ukraine 地図



④ 戦争が起こるのはなぜ？

▶ 戦争ってどんなこと？

▶ 戦争の原因；

- ・ 領土の拡大（世界4大文明誕生の時から）
- ・ 民族の対立
- ・ 宗教の対立
- ・ 資源の奪い合い
- ・ イデオロギー対立
- ・ 独立戦争 自衛戦争
- ・ 戦争で利益を得る国（勢力）の思惑・画策

⑤-1 地政学で見る日本

- ▶ 日本の地理的特徴
- ▶ 江戸時代までの日本の国際関係
 - ・ 白村江の戦い
 - ・ 文永/弘安の役
 - ・ 文禄/慶長の役
- ▶ 大陸の支配を目指す日本
 - ・ 日清、日露、満州、日中、第二次世界大戦
- ▶ 太平洋戦争の始まりと敗戦
 - ・ 1941年真珠湾、マレー半島攻撃
 - ・ 1945年ソ連参戦、広島・長崎原爆投下、3百万人犠牲
- ▶ 冷戦下の戦後復興
 - ・ 日米安保体制、朝鮮特需、ベトナム特需

⑤-2 地政学で見る日本

▶ 日本とアメリカとの関係

安保条約を結び同盟関係にあり 基地の提供 Russia/中国/
北朝鮮の防波堤、沖縄は米国の世界戦略の要

▶ 日本とRussia との関係

北方領土問題

▶ 日本と中国との関係

台湾問題 中国、尖閣諸島を自国の領土と主張

▶ 日本と朝鮮半島との関係

対韓国-竹島問題 北-国交なし 拉致問題進展なし

⑥ 地政学で見る中国

▶ Land Power の大国

Land Power の大国の歴史を持つ

▶ Sea Power 国家への挑戦

近年経済発展を遂げ Sea Power の国をめざしている

▶ 海への進出をめざす

東シナ海、ベトナム、フィリピン、南沙諸島、尖閣諸島

▶ 台湾問題と新冷戦

米 vs 中国 の対立表面化

⑦ 地政学で見る朝鮮半島

- ▶ 大国の通り道になる半島国家

1910～1945 日韓併合

- ▶ 南北に分かれた民族

1950年朝鮮戦争、未だ休戦状態

- ▶ 韓国をめぐる国際関係

韓国・・・米国、中国とのバランスを考えた外交戦略をとる

- ▶ 北朝鮮をめぐる国際関係

核兵器を持ちミサイルを発射して瀬戸際外交をとる

拉致問題進展見られず

⑧-1 戦争と平和の歴史

▶ 戦争の始まり

世界四大文明 農耕始まる→定住→国誕生→土地争い

▶ Rome の平和

古代ローマ、地中海を内海とすることでSea Power→Land Powerへ

▶ キリスト教とイスラム教の戦い

キリスト教十字軍 vsイスラム教ムハンマドイスラム帝国200年間の戦い

▶ 史上最大のモンゴル帝国

モンゴルLand Power で広大な領土を支配したがSea Powerは発揮できず

▶ 大航海時代の始まり

スペイン、ポルトガル、オランダ、イギリスなどSea Powerの 国が勢力を伸ばした

▶ ヨーロッパの戦争

大西洋三角貿易、ナポレオン戦争、ウィーン体制

注-5 大西洋三角貿易



⑧-2 (続き) 戦争と平和の歴史

▶ 帝国主義の時代

18世紀中頃 英→清、 18世紀末 アジア三角貿易
ドイツ帝国、 オーストリア・ハンガリー帝国
オスマン帝国

▶ 第1次世界大戦と国際連盟

大戦後国際連盟ができたが効果は不十分

▶ 第2次世界大戦と国際連合

世界の平和と安全を維持するために国際連合ができたが・・・
戦勝国の既得権（常任理事国の拒否権）が最大のネック！！

▶ 中東紛争の原因

中東地域（パレスチナ）をめぐるユダヤ人とアラブ人の争いを指す
UKの三重秘密協定／英仏の依託統治の杜撰が原因、未だ紛争続く

▶ 東西冷戦の時代

第2次世界大戦後続いた

▶ 新しい戦争の時代へ

新冷戦 米 vs 中国 が起こっている

注-6 アジア三角貿易



⑨-1 どうすれば戦争はなくなるの？

▶ 戦争をなくすために

ヨーロッパで国際法が整備された

(内政不干渉・争いは当事国同士で解決)

国連の平和維持活動(PKO)

人々の生活向上を図る活動 (WHO, UNESCO, UNICEF)

▶ 戦争のないヨーロッパを

1993年EU発足 (共同通貨Euro導入)

2004年東ヨーロッパ加盟

2023年UK脱退 現在27か国加盟

▶ 平和のための取り組み

核兵器廃絶・削減の取り組み

平和をめざす国際協力 (ODA, NGO, SDGs, JICA・・・)

⑨-2 私たちにできること

- ▶ 選挙で戦争に賛成の人を選ばない
- ▶ マスコミの宣伝や報道に気を配る
- ▶ 情報を正しく取り入れ自分の頭で考える
- ▶ 歴史を学び世界の様々な文化や考え方に接しお互いを認め合う

Einstein のことば ;

Peace cannot be kept by force.

It can only be achieved by understanding.

⑩ 安手の正義論を超えた深謀遠慮

- ▶ ウクライナに軍事進攻したRussia は言語道断だが「民主主義をめぐる正義の戦い」掲げるUkraine、米国、西側諸国にも看過できない深謀遠慮がある
 - ・ 米国 には巨大な軍産複合体あり。金融資本にとっても大儲けのチャンス。巨大な軍需支援は「特需」そのもの。軍隊派遣ゼロ。手を汚さずRussia の弱体化を狙える。
 - ・ Ukraineは欧州最大級の兵器生産国 →兵器の取引は情報機関のサイドビジネス → 腐敗と汚職の温床 → ゼレンスキー氏は政治腐敗を掲げて大統領になるも頓挫 → Ukraine 侵攻がゼレンスキーを蘇生させた！
 - ・ 北朝鮮は、ムガンスク/ドネツク共和国をいち早く承認 → 破壊された現地に建設労働者として重宝され貴重な外貨獲得を可能化 さらに Ukraine 軍が残した兵器/取説 入手できる
 - ・ 西側諸国でも兵器供与に伴い、それぞれの軍需産業がボロ儲けできる



⑪ 読後感想

- ▶ 世界の多くの人々は「戦争はよくない」、「平和は大切だ」、「争いの解決は話し合いで」と考えている。でも現実には戦争は起こっている。なぜ？ 今回読んだ3冊の本には「地政学」の視点からそれらの不思議を平明に解説されていて、いい勉強になった。しかし中高生対象の解説書のためか聊か物足りなさを感じた。
- ▶ 飽くなき人間の欲望はとどまるところがない。それが生きているという証なのかもしれない（戦いは生物生きるための宿命）
- ▶ 参考までにと思い「ウクライナ戦争の嘘」を読んでみた。二人の対談の抜粋を⑩に列挙しておきましたので参照いただきたい。
- ▶ ものごとは、関心を持ち組み始めると、あたかも「玉ねぎの皮をむくように」新たな事実が顕在化してきて尽きることがありません。引き続き「戦争・平和」について考えていく所存です。

終わりに

- ▶ ご清聴ありがとうございました。
- ▶ Muchas gracias por su atención.